

先進的 環境特区 浦和美園 33棟が街開き

ボラス・アキュラ・高砂建設 18年に100棟へ



ボラス・アキュラ・高砂建設 浦和美園E-FOREST スマートホーム・コミュニティ先導的モデル街区

E-FOREST 街びらきセレモニー
清水勇人さいたま市長や荻野洋埼玉高速鉄道社長なども駆け付けた

ボラスグループの中央住宅（埼玉県越谷市、品川典久社長）、アキュラホーム（東京都新宿区、宮沢俊哉社長）、埼玉県を拠点に木造注文住宅を手掛ける高砂建設（埼玉県蕨市、風間健社長）の3社が共同開発していた「浦和美園E-FOREST」（全33棟）が竣工した。3月26日に開催した街開きの記念式典には、約200人が参加した。同日の時点で、25棟が成約済みとなっている。

国の地域活性化総合特区制度に基づく、さいたま市の次世代自動車・スマートエネルギー特区事業の一環。浦和美園E-FORESTは、活動方針である「各々の発展、地域の発展、埼玉県民の安心・安全・快適な住宅、住環境の創造に寄与する」を具現化することを目的とする。低炭素で災害に強くコミュニティを育む先進的な環境タウンとして開発した。

電線類の地中化で強靱化大賞優秀賞
同事業は、さいたま市が行う先進的なまちづくりを表彰する「スマートホーム・コミュニティ事業」で最優秀事例の採択を受けたほか、「ジャパ・レトリジエンス・アワード（強靱化大賞）2017」（レトリジエンスジャパン推進協議会主催）では、開発に携わった同3社と電線類地中化工事を担当した東電タウンプランニング地域開発カンパニーが優秀賞を受賞した。

低炭素化・スマート化にコミュニティ形成などを加えた「強く、しなやかな低炭素型コミュニティ認証制度」のモデル街区として、1942平方メートル（12棟）の「つなぐ庭の街区」と3289平方メートル（21棟分）の「つなぐ庭の街区」の2街区を開発した。

「つなぐ庭」を中央住宅が、「集う庭」をアキュラホームと高砂建設が担当。全区画150平方メートル以上を確保した。3社は、官民一体型の埼玉県住まいづくり協議会（会長＝風間健・高砂建設社長）の会員企業。

建物は、nearly ZEH仕様の性能住宅。「HEAT20さいたま版グレードI」を基準とした高気密・高断熱化とHEMS・創エネ設備の整備とレトリジエンス（復元力）を確保した。今後は17年度内にレトリジエンス住宅認証制度（仮称）の創設・認証を目指し、18年度内にさらに3社で2街区を整備し、100区画を供給する計画だ。